

(様式1)

令和6年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標		自立と社会参加を目指し、児童生徒一人一人の個性や可能性を伸ばして、主体的で豊かに生きる人間を育てる。			
(2) 現状と課題		本校は、小学部と中学部で構成する肢体不自由特別支援学校で、障がいの状態や発達、学習の状況等に対応し、小学校または中学校に準ずる教育課程、知的障がい教育代替の教育課程、自立活動を主とした教育課程の3つの教育課程を編成している。児童生徒は、自宅から保護者による送迎やスクールバス、福祉有償運送の利用等により通学しているほか、隣接する青森県立あすなろ療育福祉センターに入院または入所して通学している。 児童生徒の障がいの重度・重複化や在籍数の減少に対応した授業の充実、これに伴って減少する教員の肢体不自由教育に関する専門性の維持・向上、培った指導スキルの継承、ICTの積極的な活用推進、外部人材や地域資源の活用、学校間・地域交流、交流籍による居住地校交流の推進が課題である。			
(3) 重点目標		1 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実			
		2 キャリア発達を促す指導の充実			
		3 地域と連携・協働した活動の推進			
		4 安全・安心な教育活動の充実			
(4) 結果の公表		本校の保護者には2月の参観日全体会で資料を配付し説明する。また3月に本校のホームページに掲載し地域住民等に公表する。			

自 己 評 価					学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等		
1	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実	ア 主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた教育活動を実施する。 イ 学習意欲向上のために、児童生徒個々の特性を踏まえた指導を工夫する。 ウ 児童生徒一人一人の障がいの状況等に応じた自立活動を実施する。 エ ICT機器を効果的に活用した学習活動を展開する。	・研究テーマ「児童生徒の困難さへの対応～ICTの効果的な活用を目指して～」と題して、研究をスタートさせ、グループに分かれて児童生徒の困難さについて考え、それらを補うためにICT機器を効果的に活用した実践を行った。 ・校内研究・外部講師による摂食指導や身体、自立活動について全職員で研修会を実施した。 ・東北福祉大学准教授を講師にICT研修会や校内研究に関わる教材作成の研修会を実施した。 ・中学部の準ずる教育課程では、東北6県及び筑波大学附属桐が丘特別支援学校9校の肢体不自由特別支援学校との社会科の遠隔合同授業を2回実施した。	B	・教員が、面白いと思って授業に臨むことがこどもにとって大切である。周囲でフォローし合いながら教員が考えて面白いと思ったことをやる環境を整えてほしい。 ・雪上運動で、体幹を鍛えたり、感覚器官を刺激したりするなどそれぞれの授業における教育的効果を踏まえた上で授業改善を行っていくことが必要であり、専門性の継承に繋がっていく。	・校内研究の継続的な実施と児童生徒の主体的活動を促すための授業改善を行う。 ・肢体不自由教育の専門性の向上を図るために積極的に校内研修や校外研修へ参加する。 ・個々の発達段階や障がいの状態を踏まえた指導・支援を行う。 ・個別的教育支援計画・個別の指導計画を共有し、積極的に活用する。	
2	キャリア発達を促す指導の充実	ア 児童生徒の思いや願いを踏まえた指導を実施する。 イ 自立と社会参加を目指した指導を展開する。 ウ 各種スポーツ大会への参加推進と校内大会を実施する。	・小学部では、おもに基本的生活習慣の確立を目指して、身辺処理や係活動等に日々取り組んだ。 ・小学部準ずる教育課程と中学部では、青森市民図書館に勤務する卒業生による進路講話を実施した。 ・中学部では、あすなろ療育福祉センターや青森市民図書館での職場体験、青森コロニーセンターでの社会体験を実施した。 ・体育でポッチャやフライングディスクを取り入れた授業や、交流及び共同学習において普通小・中学校とスポーツ交流を行った。 ・中学部生徒全員がマエダアリーナで行われた特別支援学校総合スポーツ大会に参加し、ポッチャ競技やフライングディスク競技で他校と対戦した。その様子を学校にZoomで中継し、小学部児童も応援した。 ・県障がい者スポーツ大会へ中学部2名が参加し、1名が入賞した。	B	・生徒の職場体験や保護者の施設見学等さまざまな取り組みを行っているが、一つ先の進路を知る機会だけでなく、その先の進路も含めた情報提供を行っていくことが大切である。	・一人一人に応じた適切な進路指導と保護者のニーズに応じた進路情報を提供する。 ・児童生徒や保護者の願いを考慮した指導内容を設定する。 ・将来を見据えた指導内容や指導方法を工夫する。 ・キャリアパスポートを積極的に活用する。 ・ケース会議で保護者、関係機関と情報共有をする。 ・地域における職場見学や職業体験を実施する。	
3	地域と連携・協働した活動の推進	ア 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を活用した学習活動を実施する。 イ 交流及び共同学習を計画的・組織的に実施する。 ウ 家庭・地域への情報発信を積極的に行う。	・学校運営協議会を活用し、学校課題の解決に向けた取り組みとして、外部人材を活用した授業や保護者、教員向けの研修会を多数実施した。 ・石江江渡下町会と連携した避難訓練を実施し、避難誘導に協力いただいたり、校内の畑の除草作業や花壇整備を地域住民とPTAが、協力して行ったりした。 ・中学部では、地域住民と協力して総合的な学習の時間を通して、笹森池周辺の環境美化に取り組んだ。 ・アウガ1Fで学校展を実施し、3日間で190名（昨年度146名）が来場した。 ・小学部では、新城小学校の児童が来校し学習発表やゲームなどで交流したほか、本校児童も新城小学校へ出向き学習発表を見学した。 ・中学部では、新城中学校へ出向き、ポッチャや授業見学を通じた交流を実施した。 ・小学部8名、中学部3名計11名（昨年度9名）が居住地校交流を希望し交流した。 ・学校ホームページや学校だよりを通して、教育活動について情報発信を積極的に行った。 ・進路だよりや相談支援事業所の方による保護者向けの進路講演会、事業所の見学等をを実施し、保護者に進路についての情報提供を行った。	A	・次年度も花の植え付けを通して、地域と生徒との交流活動を継続し、親睦を深めたい。 ・あすなろ療育福祉センターで行われるリハビリの情報交換会を学校の職員に案内したい。 ・いろいろな連携のかたちがあるが、こどもを育てるのに保護者と学校が課題を共有できているかが重要である。保護者に説明し、保護者の意見を聞くことが大切だと思う。 ・学校では、さまざまなことに取り組んでいるが、保護者に必要な情報が伝わっていない。情報発信をしても見過ごしてしまうこともある。その人にとって必要な情報が伝わっているかという視点で取り組む必要がある。 ・青森第一高等養護学校の職員と連携して、肢体不自由の専門性の向上に関する研修会を実施できると良い。	・あすなろ療育福祉センターや放課後等デイサービス等との積極的な情報交換を行う。 ・地域資源や外部人材を積極的に活用した授業や研修会の実施する。 ・地域の学校や地域住民との積極的な交流を行う。 ・特別支援教育のセンター的機能の一層の充実と地域支援を行う。	

4	安全・安心な教育活動の充実	ア 医療的ケアの安全で確実な実施に努める。 イ 給食の安全な実施と食育を推進する。	・医療的ケア校内安全委員会を開催し、医療的ケアを必要とする児童生徒の指導やケアの仕方に対して指導医から助言をいただき指導に生かした。また、緊急時対応訓練を2回実施し、医療的ケア対象児童生徒を含む緊急時の対応について全職員で訓練と振り返りをした。 ・保護者の給食試食会を2回実施した。 また、青森第一高等養護学校の栄養教諭による保護者や児童生徒向けの食育の授業や、研修会を実施した。	B	・給食試食会や栄養教諭の講話に参加して、県産品や野菜を多く取り入れていることを知り、食育についてとても考えさせられた。 ・給食試食会はとても有意義だが、参加者が少ないため、キャリア教育や他の保護者研修会とコラボして同日設定で行うと良いのではないか。 ・女性職員が多く男性職員が少ないため、トイレの介助等で苦労しているのではないか。	・適切な指導と安心・安全な学校生活を実施する。 ・安全・安心な医療的ケアを実施する。 ・緊急時における迅速・的確な対応を行う。
(11) 総括	学校評価に係る保護者アンケートの全体平均は、昨年度より0.1ポイント下降したものの、3.6と高評価であった。評価点が3.9と特に高かった項目は、「学校行事」、「パラスポーツ等のスポーツに関すること」の2項目で、昨年度よりもともに0.2ポイント上昇した。学校行事については、活躍の場を保護者や地域の皆様に応援していただくことで、こども一人一人の可能性を最大限に伸ばすことができたものと考える。また、パラスポーツを取り入れた学習については、本校においても2026年に行われる青の煌めきあおり障スポに向けてさまざまな取り組みが行われており、盛り上がりを見せている。今後もパラスポーツを通して、スポーツの楽しさを体験し、社会参加の推進に寄与できるよう取り組みを継続していく。一方、昨年度の平均から0.3ポイント下降した項目は、「いじめや体罰などの問題行動の未然防止や早期発見・早期対応」、「保護者が必要な進路情報の提供」の2項目である。保護者が安心して本校にこどもを通わせられるように学校ホームページや学級だより、面談等を通して日頃の児童生徒の様子を保護者の皆様にお伝えするとともに、職員一同児童生徒の悩みに寄り添った指導を行っていく。また、今後も継続して、将来のこどもの姿が描けるように保護者のニーズに応じた進路学習会や、施設見学の実施、進路だよりや面談等を通した進路に関するさまざまな情報提供を積極的に行っていく。 教職員による自己評価の全体の評価平均は、昨年度と同じ3.4であり、各項目の平均値は、3.1～3.7と高い評価であった。最も高い3.7の評価は、「県費・私費など学校が管理する資金の経理の適正処理」、「パラスポーツ等スポーツへの取り組み」、「学校だよりや学級通信の発行などの情報発信」、「個人情報の適正処理」であった。また、昨年度より0.3ポイント以上大幅に上昇した項目は、「児童生徒一人一人に応じた指導・支援」、「外部人材を活用した授業」である。今年度は、あすなろ療育福祉センターの医師や作業療法士、理学療法士を招聘しての専門性向上のための校内研修の実施や学校運営協議会委員の方に協力を得て、職員向けの専門性向上のための研修、児童生徒へは、外部専門家による授業、保護者向けの研修会等を実施できたことが影響していると考える。一方、大きく下降した項目はないが、「専門性について」、「教職員の積極的な校内研修・校外研修について」の項目がやや低い結果となった。授業改善や積極的な姿勢で研修に取り組むべきと教員が感じていることを示している。 学校関係者評価では、本校の教育活動すべてについて概ね高評価をいただいた。学校運営協議会委員の方に、学校課題解決のためにさまざまな場面で御協力いただいたことにより、充実した教育活動を行うことができたと考える。 以上のことから、今後改善すべき点として、次の3点を挙げる。 (1) 校内研究の継続的な実施と授業改善 (2) 積極的な校内研修や校外研修への参加 (3) 一人一人に応じた適切な進路指導と保護者のニーズに応じた進路情報の提供					